

関西大学 初等部
2014 年度学校評価報告書



2015 年 3 月

目 次

1. 本校の概要	1
2. 今年度の重点目標における取組計画、自己評価及び今後の改善方策	1
3. アンケートの実施状況について.....	6
4. アンケート結果の分析.....	7
5. 校長の意見書	12

参考資料

- 2014年度 関西大学初等部学校評価アンケート（教員用）
- 2014年度 関西大学初等部学校評価アンケート（保護者用）
- 2014年度 関西大学初等部学校評価アンケート（児童用）
- 2014年度 関西大学初等部学校評価アンケート 集計

2014年度 関西大学初等部学校評価報告書

関西大学初等部

自己点検評価委員会

1. 本校の概要

(1) 沿革

2010年(平成22年)4月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数約380名、教員数31名(専任22、非常勤9)である。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」の力を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 一 学びを深め 志高く 一」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「情感豊かな子」「挑戦する子」としている。

本年度重点目標は、「第一期生の卒業と教育課程の大綱的な成立を踏まえ、改めて本校創設の趣旨を確認し、新たな教育創造への一歩を踏み出す」となっている。

(3) 中期的目標

ア. 確かな学力と思考力育成

イ. 基本的な生活規範、倫理観等の育成と校風の醸成

ウ. 新設校として学校運営にかかる事項の体制整備

2. 今年度の重点目標における取組計画、自己評価及び今後の改善方策

重点目標ア:本校教育の柱である思考力育成の成果を教科学習等だけでなく、児童の生活にも反映させるよう努めること

評価指標:生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営

児童の学力の向上に資する月平均2回以上の教員研修会の開催

読書記録の管理や図書館読書講座の実施による図書館教育の充実

英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流による国際理解教育の推進

(ア) 取組計画・内容

① 学級経営と学力向上

学級経営にあたっては、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳・学級だより等による家庭との連携、さらには、日記やアンケートなどによる内面的な指導にも努めた。そのため、いずれの学級においても極めて安定した学級経営が行われている。

学力向上については、今年度も12年一貫教育の柱としている思考力育成を推進することにし、研究主題を「思考スキルを診る」とした。これは、授業における思考スキル

の位置づけを明確にし、より高い授業デザインを目指すことを意図するものである。そのため、今年度も授業研究を中心に30回以上の教員研修会を開催し、管理職を除く全教員が研究授業を行うとともに、校外からも積極的に指導者を招聘した。研究のまとめとして2月に研究発表会を開催し、5年生と中等部1年生との総合的な学習のコラボ授業も公開した。

学力向上の一環としてハイブリッドな教育を進めるため、各学年で外部人材の協力を得ているが、今年度もアナウンサー、写真家、新聞記者、保健所、助産師、警察署、製薬会社、生命保険会社、商店、地場産業関係者等々、多様な職種の方の支援を受けた。

② 図書館教育の充実

思考力の基盤の充実と伸長を図るため、図書館に全児童の読書記録を保管し、日頃の指導に役立てている。図書館講座として、地域ボランティアによる読み聞かせの他、論語塾、児童文学作家によるお話会、若手数学家による数学教室等を開催している。論語塾については、4年前から外部人材を導入し年3回開催しているが、今年度は全児童に本校独自のテキストを作成・配付し、より一層の意欲付けを行った。また、数学家からは高学年児童が夏休みの課題を出してもらおうなどの指導を受けた。

③ 国際理解教育の推進

英語教育の一環として、テレビ会議システムを使い、主にオーストラリア、ハワイと交流を行った。また、学習のまとめとして低学年を中心に英語劇等の発表会を開催するとともに、6年生では、オーストラリアへホームステイを含む1週間の研修旅行を実施した。

英語圏以外の国際交流については、総合的な学習の時間で主に実施し、韓国、台湾、フィリピン、インド等と行った。インドの公立小学校に対しては、5年生と中等部1年生による支援活動も行った。英語教育に関しては、会話中心の指導に加えて思考スキルを活用した学習方法の研究も行った。

(イ) 自己評価及び今後の改善方策

学力向上の柱となる思考力育成の研究は今年度で5年目を迎え、2月の研究発表会には、文部科学省関係者、マスコミ等を含め全国から800名の教育関係者が参加するなど、高い評価を受けた。研究内容は、新学習指導要領に関して中央教育審議会に諮問された内容とも重複する部分も多く、次年度以降も継続していきたい。

これまでの思考力育成の結果として、昨年に引き続き文部科学省の全国学力・学習調査において非常に優秀な成績を上げることができた。生活面においても大きな問題事象が発生していず、また、通院を要するようないけが等の発生も昨年に比して減少していることから、成果が行動面においても徐々に表れてきているのではないかと考えている。学力状況の客観的指標である文部科学省の学力調査については、今後も現在レベルの成績を維持していきたい。

このような思考力育成のための基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な読書指導に

よって支えられており、次年度も継続して個々の読書記録を残し、指導に活かして行くことにしている。図書館教育としては、その他にも、これまで実施してきた地域ボランティアによる読み聞かせや、数学家等による講演・指導についても次年度に向けて交渉中であり、行事の精選についても考慮しつつ、実践したい。特に、算数科の学習とは異なる視点による若手数学家の指導は、高学年児童の知的関心を極めて高めており、他校にはない独自の取組として次年度以降も可能な限り継続していきたい。

国際理解教育におけるアジアの国々との交流は、本学の総合情報学部からも大きな支援を受けており、大学院生等の協力を頻繁に受けている。そういう意味では大学の系列校としての本校独自の取組であり、保護者からの関心も高い。本校にも外国籍児童が複数在籍しているが、国籍が話題になることが全くない。これは国際理解教育を通しての異文化理解等が進んだ成果だと考えている。次年度も2年生以上の学年において、韓国、フィリピン、インド、オーストラリア等との交流を図る予定にしているが、可能な限り他の国々とも交流の範囲を広げたい。また、次年度も6年生の英語研修旅行先としてオーストラリアを予定しており、今年度以上に円滑な交流を図りたい。さらに、夏休みを利用したイギリスやハワイのサマースクールについても、継続したいと考えている。

教科や総合的な学習、国際交流等を支える ICT 環境については、今年度がパソコンのリプレースの時期であり、当初はハードの機能や他機器との接続等に戸惑うところがあったが、現在は学習活動に支障のないところまで戻っている。また、今年度から5年生に対して iPad mini を自己負担で所持させたが、学習や活動に積極的に取り入れることにより保護者からの賛同を得ることができた。iPad mini については次年度も5年生から導入を図る予定である。

中等部との連携は、今年度一期生が中等部へ進学し、さらに緊密性が増したと考えている。今年度は、中等部1年生との合同授業なども行われるようになり、その成果を研究発表会において示すことができた。

新教育課程に予定されている「特別の教科 道徳」に関しては、昨年度、外部評価委員からも準備するようにとの指導を頂いたが、まだ従前と殆ど変わっていない。次年度は、思考も重視する道徳の趣旨を踏まえ、本校の思考スキルやシンキングツール等の活用についても研修していきたい。

重点目標イ：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること。

評価指標：いじめ問題への対応など生徒指導に係る組織体制の確立

(ア) 取組計画・内容

①生徒指導・人権教育

生徒指導に関して特に大きな事象が生じているわけではないが、例年、学習に対する評価に比べるとやや低く、本校の課題となってきた。また、そういう視点での外部評価委員からの指摘もこれまで行われてきている。

今年度も組織的には、生徒指導部、健康教育部、特別活動部の各主任と、安全教育主任、人権教育主任、道徳教育主任、養護教諭からなる生徒指導連携推進会議を設置し、生徒指導の中核とした。また、年度当初には児童理解の基本として「子どもを語る会」を開催し、全教員で健康や食物アレルギーの状況も含めて共通理解を図った。さらに、毎月の職員会議において各学級の状況（けが等も含む）について報告しあうことを確認するとともに、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼した。

登下校の歩行の指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い、意識の向上を図った。また、教育後援会による直接の登下校指導やポスターによる啓発運動等も行われた。

いじめ問題への対策については3月に「いじめ防止基本方針」を作成し、管理職を含む「いじめ対策委員会」を設置し、ホームページや学校だよりにおいて保護者へも周知を図った。事象や情報の把握については、児童連絡帳、年2回の児童アンケート、校長による年3回の「がんばりましょうカード」、保護者懇談等で把握を図っている。不登校対策については不登校対策委員会を設置し対応を図ることにしており、スクールカウンセラーとの連携も行っている。

人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施しているが、講演会としては、障害者スポーツに関する専門家を招聘し、全児童にパラリンピック等の具体的な話をして頂いた。また、教員研修として講師を招聘して部落差別に関する研修を行った。

②特別活動

特別活動も良好な校風醸成のための重要な要素である。今年度も運動会は6月、文化祭は11月に実施した。児童の祖父母等の見学も多数あり、両方とも大盛況だった。

学年独自の活動のうち、主なものとして1年生から3年生までの高岳館を使った宿泊訓練、4年生の阿波の宿泊訓練と2分の1成人式、5年生のスキー合宿、6年生の修学旅行がある。いずれの活動も目的を十分に果たすことができたが、4年生の宿泊訓練は当初7月に予定していたが、台風接近のため9月に延期、実施した。

委員会活動、クラブ活動は5、6年生によって実施しているが、全ての委員会、クラブで意欲的な活動が行われた。

(イ) 自己評価及び今後の改善方策

「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、電話、連絡帳により家庭との意思疎通を頻繁に図っている。このような教員の意識や体制が功を奏しているのか、いじめ問題は把握できず、不登校児童も生起していない。

この二つの問題については、全員が重要視しており、次年度以降も未然防止に積極的に取り組んでいきたい。このような落ち着いた状況になったのは、昨年度卒業生が誕生し、学校としての体制が完成したことの影響もあると強く感じている。

このことは、高学年の児童にとっては、日常的に卒業生に接することにより自分の具体的な将来像を見ることができること、また、低学年にとってはそのような落ち着いた上級生がいることへの安心感など、同一敷地、同一校舎で生活する一貫校のよさがでていのではないかと考えている。事実、卒業した中部生と親しげに会話を楽しんだり、手をつないだりしてもらって登校する初等部生を頻繁に目にするようになってきている。

登下校中の生徒指導事象に関しては、今年度は外部からの注意等が極めて少なかった。これも迷惑行為や危険の例を挙げた具体的な指導や教育後援会の協力の成果であると考えている。ただ、登下校中における残る課題としては、携帯電話の使用について指導がまだ十分とは言えないことである。本校は遠距離通学者もおり、危機回避のため希望者には携帯電話の所持を許可しているが、些細な事で保護者との連絡（保護者からの連絡もある）に使用しており、そのことがかえって周囲からの反発等を招く危険性があることを、保護者を含めて周知しておく必要がある。

生徒指導全体で見れば、毎月の職員会議での報告事案も減っており、安定した教育活動が行われていると考えられるが、生活規範や規律性の定着のためにはこの状態を次年度以降も継続していかなければならない。

また、学校行事については、アンケートにもあるように文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、それぞれの自尊感情を高めることができたと考えており、今年度の反省を踏まえ、さらに内容のある行事にしていきたい。

ただ、宿泊行事に関しては、児童の体力面等から判断して4年生の宿泊訓練と5年生のスキー合宿の入れ替えが良いのではという反省が出され、行き先、内容について検討することになっている。

今年度の保護者アンケートは、学習面だけでなく、懸案であった生徒指導や人権教育、特別活動等に関する項目も評価が高く、今後もこれらを一体にして良好な校風を醸成していきたい。

重点目標ウ：安全管理・給食・入学試験・保護者連携等、学校運営体制を整えること。

評価指標：児童の安全管理に関する訓練の実施、給食におけるアレルギー対策の徹底など

安全管理体制の確立

少子化時代における入学試験実施内容の検討

保護者と一体となった学校運営の実施

(ア) 取組計画・内容

①安全管理・指導

安全指導については、新入生時の歩行の安全から、自転車の乗り方、安全マップ作り、地震・津波等の自然災害からの身の守り方、さらには情報モラル等まで学年に応じた計画を立てて指導を行っている。また、管理面では4・8・11月の一斉下校指導、地震・火災等の避難訓練、緊急時の児童引き渡し訓練、不審者侵入対応訓練等を実施し、万全

を期すよう努めている。

②給食・アレルギー対策

給食については、業者側だけでなく学校側も管理栄養士を配置し、食品の安全管理や調理等に細かい指導を行っている。また、アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、食品の原材料の吟味や配膳盆の色を他と異なる色にするなどの対策をとっている。

③入学試験

昨年度末から次年度に向けた広報活動や説明会を開始し、10月に新1年生の入学試験を実施しているが、少子化や他校との影響もあり、徐々にではあるが志願者数が減少してきており課題となっている。また、卒業時には定員を下回ると予想される4年生以下の学年については、毎年2月に編入試験を行っており、今年度も新4年生を対象に実施した。

④保護者・大学との連携

今年度も教育後援会からは多くの支援・協力を受けた。登下校の安全ポスターや駅等での見守り、新入学児童への支援、筆箱などの初等部専用グッズの製作・販売、餅つき大会やマラソン大会等、まさに献身的に支えて頂いた。

また、関西大学からは、研究や授業への指導・協力、研究発表会への応援、留学生の紹介、国際交流支援等を受けている。

(イ) 自己評価

学校体制は殆ど出来上がった。対象となる子どもが代わるために、安全管理等については常に丁寧な対応が必要と考えているが、今年度は、各種の避難訓練等を含め、ほぼ対応ができたと考えている。特に、アレルギー対策については、給食業者、管理栄養士、担任、養護教諭等の努力により、完全に対応できている。

アレルギー対応については、出張等で担任不在の場合でも対応できる体制を整えているが、今後も万全を期したい。

入学試験の志願者数の減少については、これまでと異なる入試日の設定や考査内容についても見直しをしながら対応したいと考えている。

保護者連携については、殆ど学校側から一方的に要望しており、本校教育の質を一層高めることによって、保護者の期待に応えたいと考えている。

3. アンケートの実施状況について

保護者アンケートは2月4日(水)から2月10日(火)、教員は2月9日(月)から2月13日(金)、児童は2月13日(金)に実施した。保護者アンケートの回収結果は、全保護者374名中325名、回収率87%であり、昨年(85%)とほぼ同様である。内訳は、1年生57名、2年生59名、3年生50名、4年生58名、5年生52名、6年生49名である。高学年は低学年に比べて少なくなっているが、これは毎年実施による慣れのためであると考

えている。また、今年度から記名による回答も可能としたが、記名数は135名で全体の42%であった。

教員アンケートは専任22名、非常勤1名、計23名から回答があった。専任の回収率は100%である。また、児童は6年生全員62名、回収率100%である。

アンケート項目・内容については、教員40項目、保護者32項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。また、昨年からはじめた児童分については、昨年に続いて独立させることにした。なお、児童アンケートは今年度の評価ではなく、2年生での転入からの初等部生活を振り返ってのアンケートとなっている。

評価については、3種類のアンケートとも4段階評価にし、「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を選択させるようにした。

項目・内容については、いずれも5月の職員会議で検討・承認され、10月の職員会議でも再確認された。

4. アンケート結果の分析

ア 教員・保護者アンケートについて

No. 1において本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2において初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねている。その結果、No. 1, 2の両方において、教員評価が昨年度に比べてかなり改善され、また、保護者評価においてもNo. 2の「保護者としてお子さんに関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか」という学校に対する満足度の肯定的評価が、保護者アンケート実施以来最高の98%に達するなど、本校の今年度の教育活動は昨年度よりも順調に展開され、成功を収めたと考えている。

No. 3からNo. 9（保護者はNo. 9無し）までは、学級経営を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。教員、保護者評価とも全項目について上がっており両者の納得度・満足度は高いことが判る。特に、No. 6は思考力重視の指導について尋ねているが、教員評価において昨年同様、全員が肯定的評価をしており、しかも「よくあてはまる」の評価が高いことから、全教員が思考力育成を意識した学習指導を積極的に行ったことが伺える。教員のNo. 9に「よくあてはまる」の評価がないのは、既に中等部との接続カリキュラムが完成し、現在は実証中であるためだと考えられる。

No. 10, 11 は英語教育に関する項目である。教員、保護者評価とも昨年とほぼ同じであり、2回目となったオーストラリア修学旅行のホームステイについても一定の信頼を得たと考えている。

No. 12 が国際理解教育の項目である。教員、保護者評価ともほぼ昨年同様であるが、教員に比べて保護者からは高い評価を受けていることがわかる。

No. 13, 14 は図書館教育の項目である。教員、保護者評価とも昨年と変化が無いが、保護者による「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的評価の合計は90%を超えている。

No. 15, 16 は ICT 環境や情報発信に関する項目である。昨年度に比べて教員評価は殆ど変化ないが、保護者評価は高くなっており、両項目において肯定的評価が 95%を超している。これは、iPad mini の導入や初等部ホームページの学年画面の充実、また、学年・学級・保健便り等への満足感によるものと考えている。

No. 17, 18, 19 は生徒指導に関する項目である。教員評価は No. 17 が昨年と同様だが、他項目は改善された。保護者評価においても全項目が上がっており、本校の従前からの課題が改善の方向にあることを示している。ただ、教員評価には「あてはまらない」は無いが、保護者評価では依然として各項目ともに残っている。

No. 20, 21 は特別活動に関する項目である。昨年と同様であるが、特に、No. 20 の学年・学級行事や運動会・文化祭等の学校行事に対しては、教員は全員、保護者も 99% が肯定的評価をしている。

No. 22 は道徳的価値の獲得や実践力等の育成に関する項目である。教員評価は昨年と変わらないが、保護者は 90%以上の肯定的評価となっており、生徒指導との相乗的効果も考えられる。

No. 23, 24, 25 は人権教育に関する項目である。No. 23 の『『いのち』をテーマにした授業への取組』と No. 24 の「国籍等の違いを認め合う教育」については教員、保護者評価とも改善されており、特に、No. 24 については保護者の 90%以上が肯定的な評価をしている。

No. 26, 27 は健康教育に関する項目である。教員、保護者評価とも昨年度と殆ど変化はない。保護者は両項目とも 90%以上の肯定的評価を与えている。No. 28 から No. 32 (保護者は No. 28, 30 無し) は安全管理に関する項目である。教員評価 No. 30 の「児童自らの危機回避能力の向上」の項目以外は、教員、保護者とも極めて高い評価になっており、特に、教員評価 No. 29, 32 の「登下校状況のチェックと家庭連絡」「各種避難訓練の実施」については 100%の肯定的評価となっている。

No. 33, 34, 35 (保護者は No. 34 無し) は教員研修に関する項目である。保護者は No. 33, 35 において 90%以上の評価をしており、児童の学力向上の背景に教員の研修があることを認識している。また、今年度の研究発表会に多くの参加者があったことなどから教員評価 No. 35 も 100%近い肯定的な数字となっている。

No. 36 は進路指導に関する項目である。教員評価はあまり変化が無いが、保護者評価は少し改善している。これは保護者への中等部主催の進路説明会の内容が改善されたためであり、教員評価も今後は伴って上昇していくものと考えている。進路指導については、卒業生の状況についても中等部と一層連携を深めていきたい。

No. 37 (保護者は無し) は入試・広報に関する項目である。「あまりあてはまらない」が 4%いるが、昨年度とほぼ同様の結果となっている。

No. 38 (保護者は無し) は関西大学との連携に関する項目である。研修指導、研究会への協力等、回数、内容的にあまり変わらないため昨年とほぼ同様の結果となっている。

No. 39 は教育後援会との連携に関する項目である。教員は昨年度と比べて変化無く、

保護者評価は、若干、高くなっている。これは年数を重ねるにつれ、保護者の学校に対する関心や理解度が高まっているためと考えられる。

No. 40 は学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。教員・保護者評価とも肯定的評価が 90%を超えており、学校と家庭の意思疎通がほぼ円滑に行われていると考えられる。

イ 児童アンケートについて

昨年度の 1 期生は 64 名、今年度の 2 期生は 62 名である。いずれも総数が少なく、また、初等部での在籍期間も異なるために単純に比較はできず、全体的な傾向として判断したい。

No. 1 は初等部に在籍して良かったかを尋ねている。昨年度に続き「よくあてはまる」の割合も高く、殆どが肯定的な評価だが、少人数でも否定的な児童がいたことは反省したい。

No. 2 は学校が楽しいかを尋ねている。少人数だがあまり楽しくなかったと感じている児童がおり、卒業まで時間はないが、現在の学級の状況について気をつけたい。

No. 3 は勉強に関する項目である。大体は肯定的な評価をしているが、昨年度同様、あまり頑張っていないと回答している児童もかなりおり、指導の工夫の必要性がある。

No. 4 は本校の研究の中心である思考力育成に関する項目である。昨年度に続いて今年度も 9 割近くが肯定的な評価をしていることは教員の研究意欲を一層高めるものである。

No. 5 は授業の工夫に関する項目である。これも昨年度に続いて 9 割を超す肯定的な評価となっており、日常的に高い教育実践がなされていることがわかる。

No. 6 は読書の量に関する項目である。昨年度に続いて肯定的評価が 6 割に届いてなく、他の項目に比べて評価が低い傾向にある。思考力育成には読書量は重要であり、指導に力を入れたい。

No. 7 は運動会や文化祭などへの参加意欲に関する項目である。昨年度に続いて 9 割以上が肯定的な評価をしており、今年度は、特に「よくあてはまる」の割合が高い。

No. 8 は基本的な生活習慣に関する項目である。昨年度に続き肯定的評価が 9 割以上もあり、1 期生、2 期生とも校風の基本となる生活規範づくりに貢献したことがわかる。

No. 9 はいじめやなかまはずれに関する項目である。今年度は評価の高い児童と評価の低い児童にはっきりと分かれているのが特徴であり、ポイントを絞った指導も心がける必要がある。

No. 10 は健康維持に関する項目である。今年度の児童はインフルエンザ等による影響をあまり受けることが無く、昨年度に比べ評価の低い児童が少ない。

＜学校関係者評価委員会からの評価結果＞

ア 重点目標について

(1) 学力向上について

研究発表会は大盛況であり、まるで学会のような雰囲気であった。あの雰囲気の中で普段どおりに勉強している子どもたちの姿を、ぜひ保護者にも見てもらいたい。それが難しいのなら、シンポジウムの様子を後日懇談会の場で放映するという方法もあるのではないか。保護者に素晴らしい学校に子ども達を預けているのだということを知ってもらいたい。来年度は、参加人数の制限や校舎案内の充実など、円滑な実施運営に向けたさらなる検討を進められたい。

文部科学省の全国学力・学習状況調査の結果については、本校の思考力育成に関する取り組みの成果をリアルに示す素晴らしい結果である。PISA 型の教育実践の成果を客観的に示すものであるため、できる範囲で広く公表すべきであり、報告書にももっと詳しく記載したほうが良い。それが教員の自覚と自信に繋がると考える。

思考力重視の教育に関して言えば、大学入試も現6年生が高校3年生になるときに大幅に変わることになっている。中等部・高等部では、今後その対応が迫られるが、初等部での思考力育成の取り組みを中等部・高等部に広げていければよいのではないかと。

(2) 生徒指導について

携帯電話に関しては、他校の協議会等でもその依存が問題視されている。特に LINE は児童だけでなく、保護者間でもトラブルの元になるケースがあるので注意が必要だ。

また、情報モラルも含めた情報リテラシーについて教育することは当然のことながら、ICT と自己、人と人との対話の大切さに繋がるような指導も必要だろう。難しいことではあるが、指導しているという学校の姿勢を発信することも大事である。

登下校に関しては、親として子どもを見守る活動を行うのは当然の責任であると考えており、特に、最寄り駅から家までの危機管理についてさらに工夫できないかを考えていきたい。

(3) 学校運営体制の整備について

進路に関しては、今年度は中等部へ内部進学しない児童がある程度いたとのことである。関西大学にない学部への進学希望が主な理由らしいが、まだ中等部・高等部の実績が少ないことや情報の不足によるものではないか。また、昨年卒業した一期生の全国学力・学習状況調査の結果も素晴らしかった。そのような子どもたちは必ず伸びるはずだ。今後、中等部・高等部での一貫教育における成長に期待したい。

広報に関しては、動画のネット配信など媒体も変わりつつあり、他校でもホームページが充実しているところもある。学校の概要を伝えるだけでなく、教科や思考力

育成など、本校の特色に焦点化した広報を展開していく時期に来ているのではないか。

開校して5年経った今、12年一貫教育が問われる時期にさしかかってきた。これまでの努力と成果に重ね、引き続きの尽力を期待するとともに、改めて一貫教育のあり方について考えて欲しい。

イ アンケート結果について

保護者の関心も高く、学校の教育活動全般に大満足であることが判る。また、保護者評価に比べ教員評価が低く、そのような教員の姿勢を評価したい。

児童も先生もとても頑張っている様子がわかるので、保護者としてもっと学校に関わり、協力できる部分があるのではないかと感じている。

全般的に非常に高く評価できる結果である。結果については、学校だよりで知らせているとのことだが、今後もいい点も悪い点もできるだけ具体的にフィードバックすることが保護者の安心にも繋がることになる。次年度以降も大いに期待したい。

[学校関係者評価委員会名簿]

氏 名	所属及び役職
五十嵐 昭夫	高槻市古曽部町自治会 会長
山崎 勝久	関西大学初等部教育後援会 顧問
芝井 敬司	関西大学文学部 教授
田中 明文	関西大学初等部 校長

5. 校長の意見書

教員、保護者のアンケートのうち、教員では「関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている」、保護者では「保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思えますか」という項目を、本校教育の総括的な評価として最重視しているが、今年度、これまでのアンケートの中で最も高い評価を保護者から頂いた。真に感謝に耐えない。

昨年度は、一期生を卒業させるなど、本校にとっては学校体制確立の年度であったが、残念なことに教員評価がそれまでの最低となった。また、保護者評価も肯定的評価は90%を超えていたものの、同じく最低の数字となった。

このような状況に陥った理由は幾つか考えられたが、今回、改善できた理由の最大は、教育理念である「学の実化」について、年度当初に全員で確認し合い、教育活動の意味、方向を一本化できたためであると考えている。

また、本校教育の柱として開校以来研究を継続してきた「思考力育成」についても、新たな展望が開けつつあることも大きな要因と考えている。

今年度の結果は、この二つの要素の改善が教員に自信を取り戻させ、その力が具体的実践となって全ての教育活動へ伝播していったと考えており、昨年度、外部評価委員からご指摘のあった多くの点についても、改善される結果となった。本校にとって、今後もこの二つの要素は、教育の成否を決める大きな鍵になると考えている。

次年度については、校長が交代し新しい校長が就任することにより、新たな学校経営方針が示されるが、学力向上の他に、人格形成の基盤となる基本的な生活習慣や人権意識の向上等については継続して推進されるものと考えている。特に、思考力の生活面への反映については、まだまだ及ばぬ点が多く、今後も継続した課題となるだろう。

また、学校関係者評価委員会からご指摘のあった中等部・高等部との12年一貫教育のあり方については、新教育課程の改訂も視野に入れながら、幅広く考慮していくことが求められると考えている。

昨年3月、卒業した一期生も立派な中等部生となり、これによって、初等部生の誰もが、自分の間近な成長を具体的にイメージできるようになった。これこそが、高等部まで同一キャンパスで学べる本校の最大のよさであり、今後、本校ならではの素晴らしい校風が生まれてくるものと期待している。

初等部の愛唱歌「心を一つに」の中に「歴史を刻む」の文言があるが、いよいよ、歴史を創る活動が本格的に始動することになる。

関西大学初等部

校長 田中 明文

2014年度 関西大学初等部学校評価アンケート（教員用）

項目	教師用質問	1：よくあてはまる 2：ややあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：まったくあてはまらない			
◎私学の独自性	①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。	1	2	3	4
(教育方針)	②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。	1	2	3	4
(1)学級経営	③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。	1	2	3	4
(2)学力向上	④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。	1	2	3	4
	⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。	1	2	3	4
	⑥思考力重視の指導が積極的に行われている。	1	2	3	4
	⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。	1	2	3	4
	⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。(家庭への啓発、指導等)	1	2	3	4
	⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。	1	2	3	4
(3)英語教育	⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。	1	2	3	4
	⑪会話重視など、工夫した英語の授業がなされている。	1	2	3	4
(4)国際理解	⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。	1	2	3	4
(5)図書館	⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。	1	2	3	4
	⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。	1	2	3	4
(6)ICT	⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。	1	2	3	4
	⑯学校の情報がHPや学年・学級通信等によって積極的に発信されている。	1	2	3	4
(7)生徒指導	⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。	1	2	3	4
	⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。	1	2	3	4
	⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。	1	2	3	4
(8)特別活動	⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。	1	2	3	4
	㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だち作りを図っている。	1	2	3	4
(9)道徳教育	㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。	1	2	3	4
(10)人権教育	㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)	1	2	3	4
	㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。	1	2	3	4
	㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。	1	2	3	4
(11)健康教育	㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。	1	2	3	4
	㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。	1	2	3	4
(12)安全管理	㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができている。	1	2	3	4
	㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。	1	2	3	4
	㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。	1	2	3	4
	㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。	1	2	3	4
	㉜各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。	1	2	3	4
(13)研修	㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。	1	2	3	4
	㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。	1	2	3	4
	㉟第5回研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。	1	2	3	4
(14)進路指導	㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。	1	2	3	4
(15)入試広報	㊲計画的な入試・広報活動が行われている。	1	2	3	4
・連携	㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。	1	2	3	4
	㊴教育後援会と適切な連携が行われている。	1	2	3	4
	㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。	1	2	3	4

2014 年度 関西大学初等部学校評価アンケート（保護者用）

○ 質問内容	1：よくあてはまる 2：ややあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：まったくあてはまらない
①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。	
②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われませんか。	
③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。	
④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われませんか。	
⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われませんか。	
⑥どの学年でも思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われませんか。	
⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われませんか。	
⑧学年に応じ宿題や自主学習等の家庭学習を積極的に進める指導を行っていると思われませんか。	
⑨会話を重視するなど、工夫した英語教育が進められていると思われませんか。	
⑩テレビ交流など、外国と積極的に国際交流を進めていると思われませんか。（2年～6年保護者のみ）	
⑪図書館では読書だけでなく、ミューズ学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。	
⑫読書の時間などを設けるなど、積極的な読書指導が行われていると思われませんか。	
⑬授業等で電子黒板やコンピュータ等の教育機器がよく利用されていると思われませんか。	
⑭HP や学年・学級通信等から初等部の様子を知ることができていると思われませんか。	
⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が積極的になされていると思われませんか。	
⑯いじめや不登校が起こらないように取り組んでいると思われませんか。	
⑰交通ルールや集団下校指導（年 3 回）等、適切な登下校指導が行われていると思われませんか。	
⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が積極的に行われていると思われませんか。	
⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を積極的に行っていると思われませんか。	
⑳学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に積極的に取り組んでいると思われませんか。	
㉑国際交流等を通じて、国籍などの違いを認め合う教育を積極的に行っていると思われませんか。 （2年～6年保護者のみ）	
㉒学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われませんか。	
㉓体育の授業や体育的行事を通して積極的な体力作りを行っていると思われませんか。	
㉔「朝ご飯コンテスト」や給食指導など、積極的に食育に取り組んでいると思われませんか。	
㉕ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実にされていると思われませんか。	
㉖「警報発令時等の登下校について」の内容についてご存知ですか。	
㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を計画的に実施していると思われませんか。	
㉘初等部の教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われませんか。	
㉙研究発表大会は初等部の教育の推進に役立っていると思われませんか。	
㉚中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われませんか。（5, 6年生保護者のみ）	
㉛初等部は教育後援会と緊密な連携がとれていると思われませんか。	
㉜学校・学級からの連絡や相談が必要に応じて適切に行われていると思われませんか。	

2014 年度 関西大学初等部学校評価アンケート (児童用)

6年生の皆さんへ

初等部生活もあと少しとなりました。5年間よくがんばりましたね。

卒業を前に、初等部を振り返ってのアンケートをとりたいと思います。

評価の欄 A・・・よくあてはまる B・・・ややあてはまる
 C・・・あまりあてはまらない D・・・あてはまらない

記号を○で囲んでください。

	質 問	評 価			
		A	B	C	D
①	関西大学初等部の児童になれてよかったと思いますか。	A	B	C	D
②	学校は楽しいですか。	A	B	C	D
③	勉強を頑張っていますか。	A	B	C	D
④	思考力がついたと思いますか。	A	B	C	D
⑤	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。	A	B	C	D
⑥	初等部ではたくさんの本を読みましたか。	A	B	C	D
⑦	運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。	A	B	C	D
⑧	あいさつや返事などがきちんとできていますか。	A	B	C	D
⑨	いじめやなかまはずれなどをしていませんか。	A	B	C	D
⑩	健康に気をつけて生活していますか。	A	B	C	D

2014年度 関西大学初等部 学校評価アンケート 集計

■よくあてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない

	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
①/学の実化の精神や校訓に則った教育 教員	82% 5% 4%	74% 26%	66% 3% 31%	65% 3% 32%	73% 14% 13%	78% 22%	40% 9% 50%	32% 3% 65%
②公立や他私学に負けない教育 教員	59% 5% 36%	57% 8% 35%	75% 19% 6%	79% 19% 4%	68% 9% 18%	74% 9% 17%	36% 12% 1% 51%	36% 8% 56%
③一人一人が大事にされる学級作り 教員	64% 27% 9%	61% 13% 26%	77% 18% 5%	83% 15% 2%	59% 27% 9%	70% 26% 4%	59% 4% 4%	59% 8% 1%
④基本的な学習ルール 教員	73% 23% 4%	64% 18% 18%	46% 7% 47%	51% 5% 44%	82% 4% 4%	59% 14% 23%	36% 12% 1% 51%	32% 8% 1%
⑤誰かひきつづけるための工夫された授業 教員	86% 5% 9%	70% 4% 26%	56% 7% 1%	64% 32% 4%	77% 5% 18%	68% 9% 23%	36% 12% 1% 51%	59% 8% 1%
⑥思考力重視の指導 教員	68% 32%	52% 48%	39% 6% 54%	61% 35% 4%	68% 32%	66% 4% 30%	27% 3% 69%	28% 4% 68%
⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応 教員	73% 14% 13%				78% 22%		40% 9% 50%	32% 3% 65%
⑧各学年に応じた家庭学習 教員	68% 9% 18%	74% 9% 17%	74% 9% 17%	74% 9% 17%	74% 9% 17%	74% 9% 17%	36% 12% 1% 51%	36% 8% 56%
⑨中等部接続に向けたカリキュラム作成 教員	59% 27% 9%	70% 26% 4%	59% 27% 9%	70% 26% 4%	59% 27% 9%	70% 26% 4%	59% 27% 9%	59% 8% 1%
⑩初等部一貫の英語カリキュラム作成 教員	82% 4% 4%	59% 14% 23%	82% 4% 4%	59% 14% 23%	82% 4% 4%	59% 14% 23%	36% 12% 1% 51%	32% 8% 1%
⑪英語を重視するなど、工夫した英語の授業 教員	77% 5% 18%				77% 5% 18%		36% 12% 1% 51%	59% 8% 1%
⑫英語の授業や総合的な時間を使った国際理解教育 教員	68% 32%	66% 4% 30%	68% 32%	61% 35% 4%	68% 32%	66% 4% 30%	27% 3% 69%	28% 4% 68%

H25

H26

H25

H26

H25

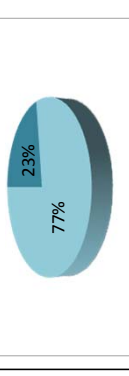
H26

H25

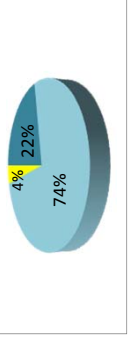
H26

⑬学校図書館を使った教科学習を含む多様な学習

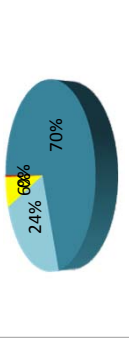
教員



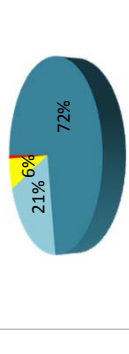
教員



全校保護者

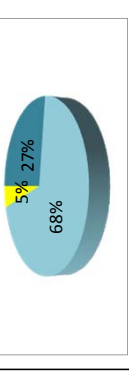


全校保護者

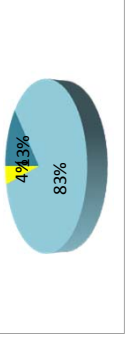


⑭人間性の育成や思考力育成の礎としての積極的な読書指導

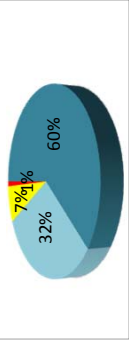
教員



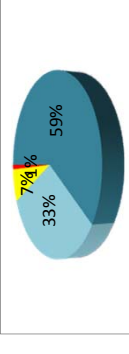
教員



全校保護者

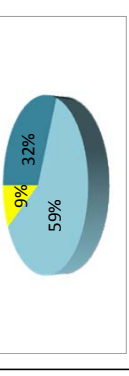


全校保護者

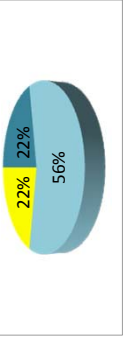


⑮学年に応じて多くの教科等でのICT利用

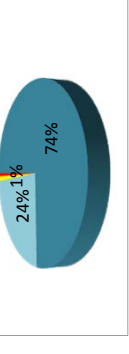
教員



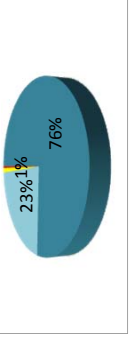
教員



全校保護者

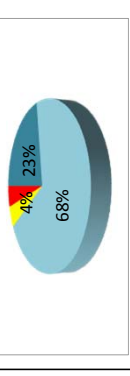


全校保護者

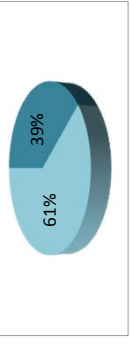


⑯学校の情報をHPIによって積極的に発信

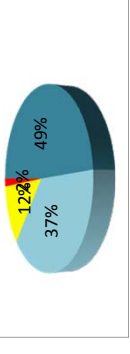
教員



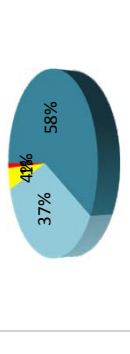
教員



全校保護者

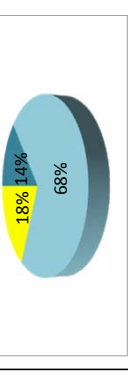


全校保護者

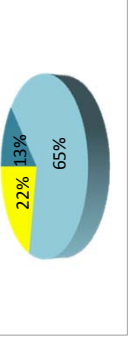


⑰基本的な生活習慣などの積極的な指導

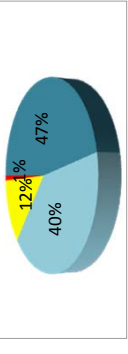
教員



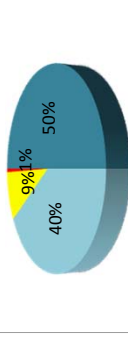
教員



全校保護者

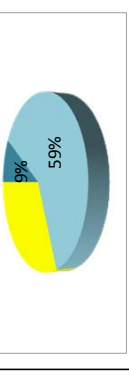


全校保護者

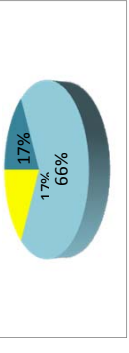


⑱いじめや不登校などの未然防止

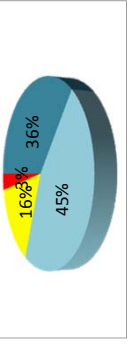
教員



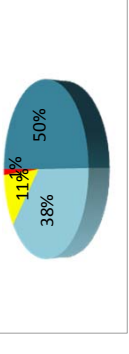
教員



全校保護者

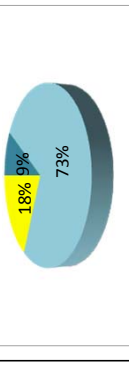


全校保護者

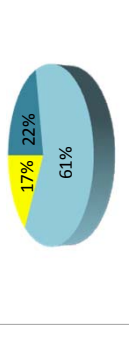


⑲登下校のルールなどの適切な指導

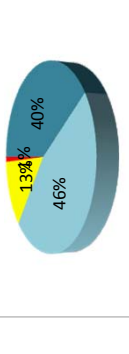
教員



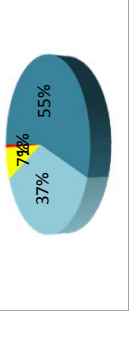
教員



全校保護者

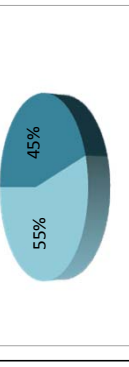


全校保護者

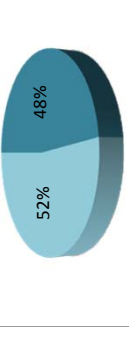


⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事

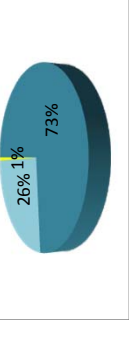
教員



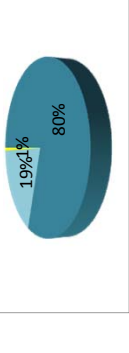
教員



全校保護者

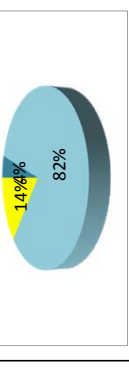


全校保護者

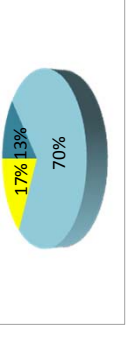


㉑クラブや委員会活動において自治意識や友運作り

教員



教員



全校保護者

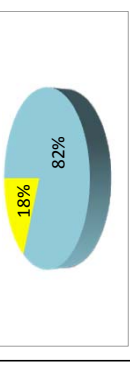


全校保護者

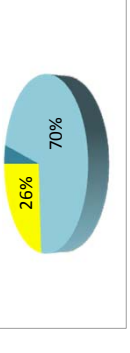


㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成

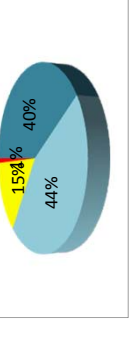
教員



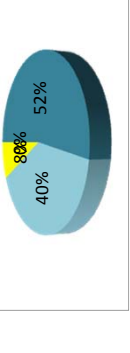
教員



全校保護者

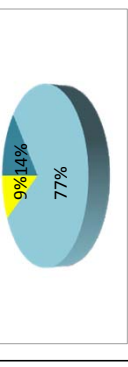


全校保護者

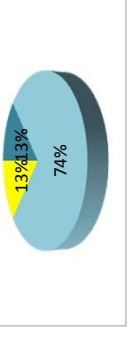


㉓いのちをテーマとした授業

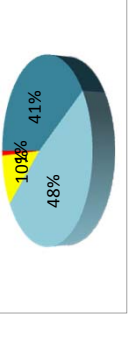
教員



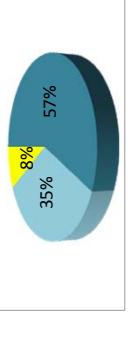
教員



全校保護者

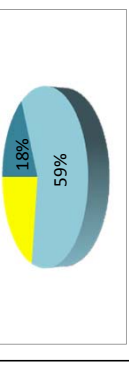


全校保護者

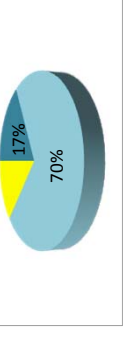


㉔国際交流を通じた、国籍等の違いを認め合う教育

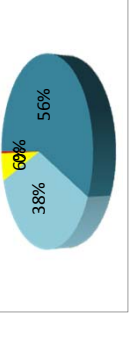
教員



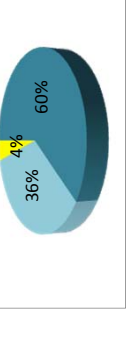
教員



全校保護者



全校保護者



H25

H26

H25

H26

H25

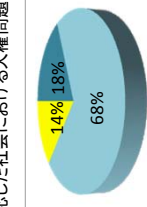
H26

H25

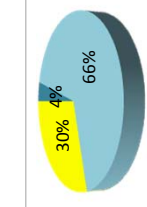
H26

②5 学年に応じた社会における人権問題に関する教育

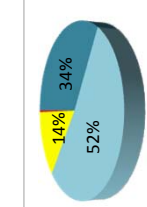
教員



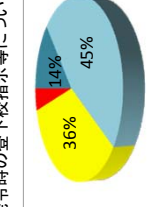
全校保護者



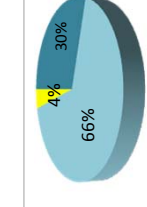
全校保護者



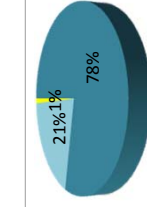
教員



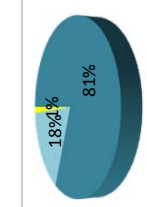
全校保護者



全校保護者

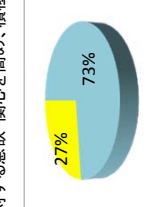


全校保護者

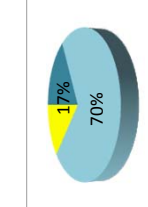


②6 運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作り

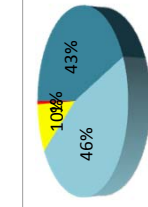
教員



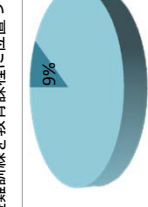
全校保護者



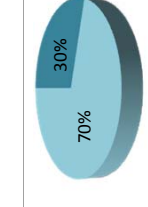
全校保護者



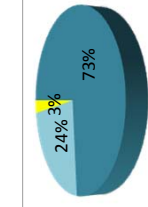
教員



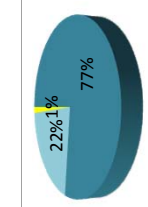
全校保護者



全校保護者

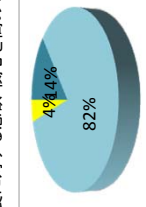


全校保護者

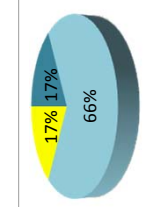


②7 健康や食に対する意欲・関心を高めるための取り組み

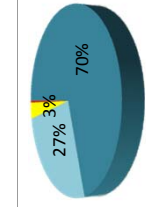
教員



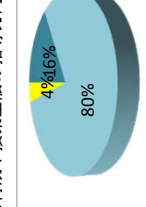
全校保護者



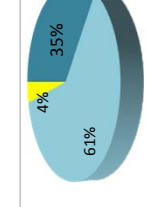
全校保護者



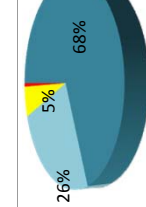
教員



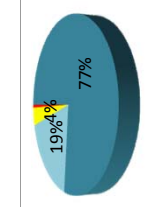
全校保護者



全校保護者

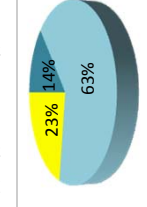


全校保護者

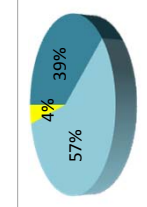


②8 登下校の安全管理のための各児童の登下校等の集約

教員



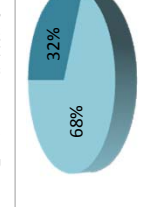
全校保護者



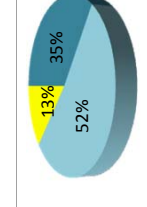
全校保護者



教員



全校保護者



全校保護者

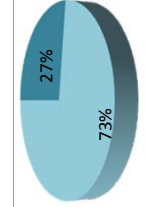


全校保護者

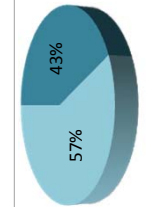


②9 各児童の登下校状況のチェック

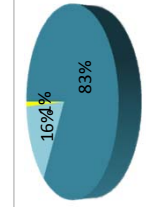
教員



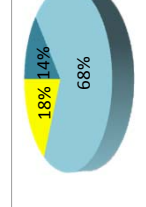
全校保護者



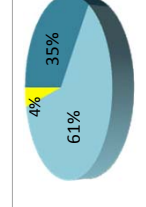
全校保護者



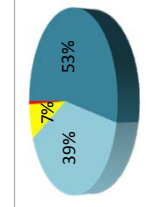
教員



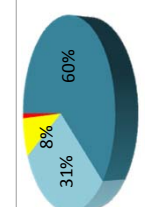
全校保護者



全校保護者

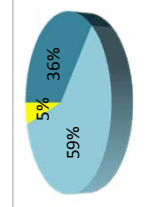


全校保護者

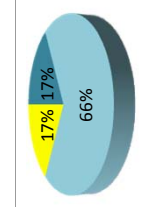


③0 児童自らの危機回避能力の向上

教員



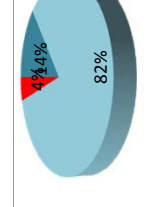
全校保護者



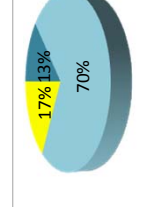
全校保護者



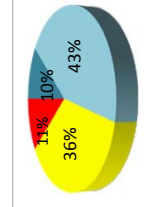
教員



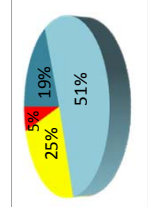
全校保護者



全校保護者

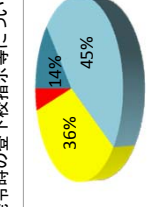


全校保護者

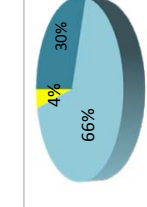


③1 登壇発表時の登下校指示等についての啓発

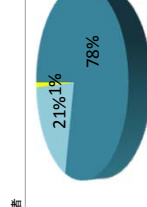
教員



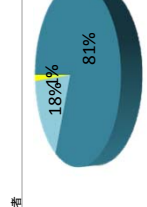
全校保護者



全校保護者

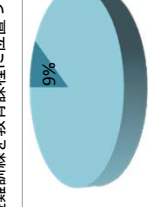


全校保護者

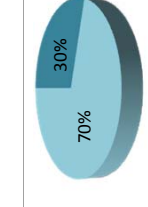


③2 各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施

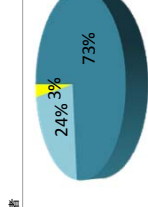
教員



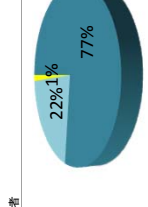
全校保護者



全校保護者

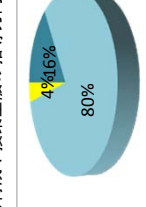


全校保護者

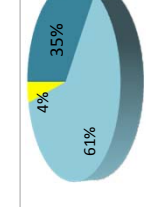


③3 思考力育成や授業全般の指導方向上の研修

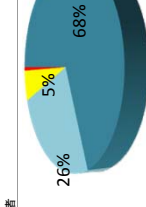
教員



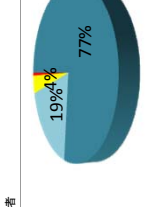
全校保護者



全校保護者

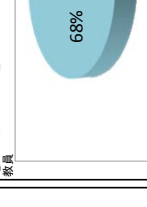


全校保護者

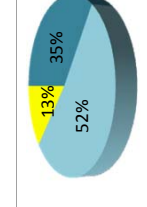


③4 思考スキルを取り入れた教科指導

教員



全校保護者



全校保護者

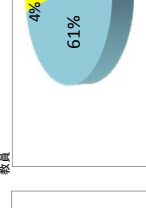


全校保護者

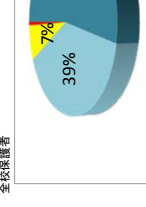


③5 研究発表大会の成功に向けた積極的な取り組み(初等部教育の推進に役立っている)

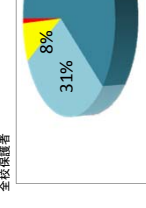
教員



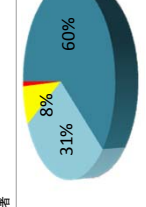
全校保護者



全校保護者

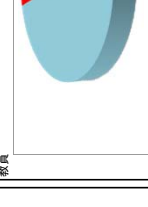


全校保護者

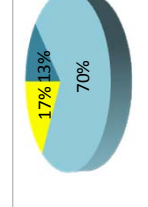


③6 中等部進学に向けた情報提供

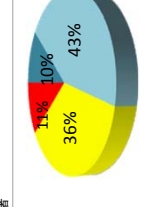
教員



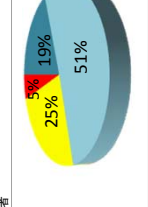
全校保護者



全校保護者



全校保護者



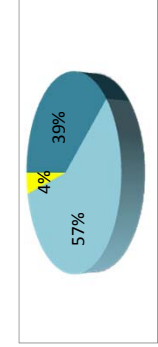
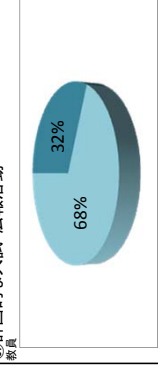
H25

H26

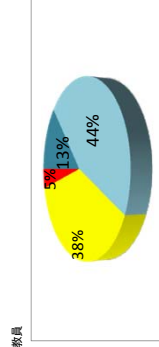
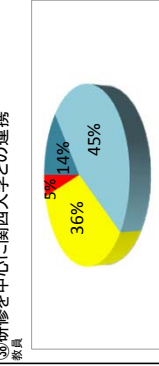
H25

H26

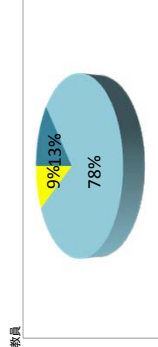
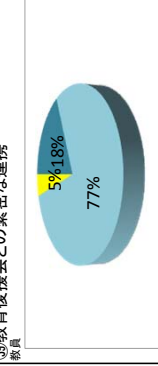
③7 計画的な入試・広報活動



③8 研修を中心に関西天学の連携



③9 教育後援会との緊密な連携



④0 学校や家庭との連絡や懇談

